

< 特徴・構成 >

- ・本報告書の第1の特徴は、現行の経営者だけを対象にしているのではなく、次の経営者（事業承継予定者）をもその対象にしている点である。
 - ・第2の特徴は、岡山県内に所在する中小企業における現行の経営者、およびその経営者から、今後、事業承継を行う予定者を対象に、質問票の郵送によるアンケート調査とインタビュー調査を同時的に、また、多面的に行っている点である。
 - ・研究報告書は序章と結章、4つの章および附録からなっている。
 - ・第1章では、従来の研究や調査に基づいて、中小企業における事業承継に関する今日的な様相や問題を抽出している。第2章では、本研究で行った2つの大きな調査について、その概要（調査の実施概要や質問項目等）を提示している。第3章では、上述の経営者調査について、その調査結果を提示している。第4章では、同じく予定者調査について、その調査結果を提示している。結章では、以上の章で提示した内容に基づいて、事業承継問題に関する考察や議論を提示している。
- 以上が本報告書の主要な部分である。

< 目的・要旨 >

- ・研究目的は第1に、中小企業における、今日の事業承継の様相について、経営者の視点から明らかにすることである。
第2に、事業承継のもう一方の当事者である予定者の視点から、彼（女）らがそれに対して抱いている懸念とそれを解消するためにとっている行動について、明らかにすることである。
- ・経営者調査では、約半数の経営者が事業承継問題に悩みを抱えており、事業承継予定者の人材面での問題（人材の不在・未定、人材育成への対応）、自社業界や事業の先行きについての不安、等をいかに解消させていくかが大きなポイントとなっている。
また、事業承継予定者の選定にあたって重視する項目としては、「創業者の一族である」ことよりも、むしろ、「経営能力が高い」、「経営意欲が高い」といったことを重視している。
しかし、事業承継予定者に経営者としての実績や経験を積ませるためには、相当な時間のかかることを覚悟する必要がある、さらに、計画的な取組みが求められる。
予定者調査では、多くの予定者で「既存事業の将来性」に対する懸念が最も大きい。この懸念は、さらに「経営者としての経験の不足」に関する懸念を喚起する結果となっていると考えられる。
多くの予定者は、経営者に対しライバル意識のようなものを持っており、一方で、一人前の経営者として認めてもらいたいという願望を持っている。経営者は、円滑な承継を実現するためには、このような予定者の感情を無視してはならない。経営者が予定者にアドバイスを行う際には、「適切」な内容を、かつ「適度」な頻度や状況にて行うことが、その実効性をあげるためには重要であると考えられる。また、円滑な事業承継をすすめるために、予定者は、経営者の経営手法、および従業員から醸し出される社内風土や企業文化等についてもよく理解し、踏襲する部分について、よく考えることが重要である。つまり、独自に経営手法や人脈を構築する行動が、それらとあまりに分離して、あるいは無関連に行うことについては、慎重に行う必要のあることを考えることである。